

経営比較分析表

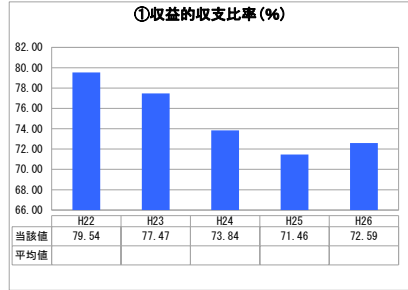
高知県 土佐町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	15.89	95.05	2,762

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
4,109	212.13	19.37
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
652	0.63	1,034.92

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



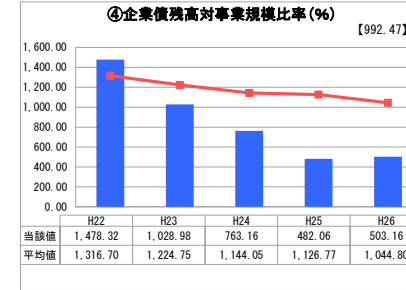
「単年度の収支」



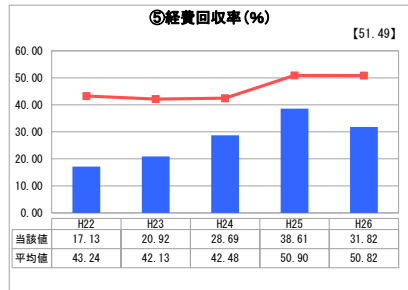
「累積欠損」



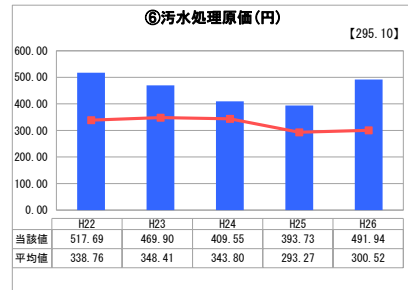
「支払能力」



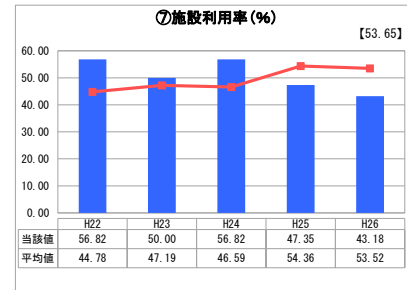
「債務残高」



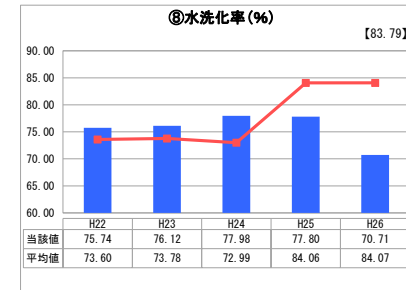
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

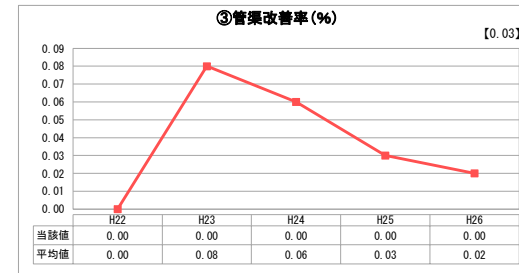
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

「①収益的収支比率」は右肩下がりであったが、H26年は上昇したため、一般会計繰入金率が少しではあるが改善された。しかし、大きな改善となっておらず、一般会計繰入金率を下げる取り組みが必要である。

「⑤経費回収率」は、汚水処理費増加率が使用料収入増加率を上回っているため、減少傾向である。また、回収率は低く、使用料で賄えていないことが分かる。

「⑥汚水処理原価」は、汚水処理費の増加率に有収水量増加率が追いついていない。現在の有収水量だけでは効率的な汚水処理が困難となる。

「⑦施設利用率」は、類似団体と比較し、減少傾向であり、施設規模としては加入増に対応可能である。

「⑧水洗化率」は、減少傾向であり、類似団体平均値に13%達しておらず、今後も水洗化率向上が必要である。

包括委託(水道・下水道)による維持管理の実施等により、経費の削減に努めているが、経営の健全化は進んでいない状況である。

2. 老朽化の状況について

相川地区では供用開始後17年、地藏寺地区16年、西石原地区15年が経過し、施設内の機器類は経年的に劣化変状しており、処理機能の適正な維持が困難となっている。そのため、H27～H29の3年間で施設の機器等を更新し、機能強化を行う。しかし、管渠更新は行わないため、今後は計画的な管渠更新が必要となる。

全体総括

使用単価(料金収入/有収水量)は、上昇しているが、それ以上に汚水処理原価上昇率が高くなっているため、「料金改定」の必要性があると考えられる。また、滞納率の減少にも努めていかなければならない。人口減少により、水洗化率向上は厳しくなっているが、継続的に経費の削減等を実施しながら、類似団体との差を少しずつ埋めていく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。